

フェザーストン捕虜収容所

その頃の戦局は

一九四二年（昭和十七年）

十二月三十一日

大本営御前会議、ガダルカナル島撤退決定。

一九四三年（昭和十八年）

二月 一日

日本軍、ガダルカナル島第一次撤退。四日第二次撤退。七日第三次撤退。地上戦闘の戦死者・餓死者二万五千人余。

六月 三十日

連合軍、ソロモン諸島中部レンドバ島と東部ニューギニアのナツソフ湾に同時上陸。

七月 三日

連合軍、ニューギニア島ザナナ付近に上陸。

八月 十五日

連合軍、ソロモン諸島ベラベラ島に上陸。

九月 四日

連合軍、ニューギニアのラエ・サラモアに上陸。

十一月二十一日

連合軍、ギルバート諸島マキン・タラワ両島上陸。

十二月 十五日

連合軍、ニューブリテン島南岸マーカーカス岬に上陸。

一九四四年（昭和十九年）

四月 六日

第十五軍、インパール北方コヒマを占領。

七月 七日

サイパン島守備隊三万人玉砕。

二十一日

連合軍、グアム島に上陸開始。

二十三日

連合軍、テナアン島に上陸開始。

九月 十七日

米軍、パラオ諸島アンガウル島に上陸開始。

十一月二十四日

B29、東京を初空襲。

一九四五年（昭和二十年）

一月 三日

米艦載機、沖繩本島空襲。

二月 十六日

米艦隊、硫黄島に猛砲撃開始。十九日上陸開始。

三月 三日

米軍、マニラを完全占領。

四月 一日

米軍、沖繩本島に上陸。

八月 六日

B29、広島に原子爆弾投下。

九日

B29、長崎市に原子爆弾投下。

十五日

日本、無条件降伏・ポツダム宣言受諾発表。

第二次世界大戦終る。

二十三日

陸海軍復員開始。

ウエリントン港

船は大きなトラブルもなく南下して一九四二年(昭和十七年)十二月、真夏日の光にかん照る暑いニュージールランドのウエリントン港に着いた。

流れながれて日本から約九千キロ、南極近い島まで運ばれてしまった。

ニュージールランド島はオーストラリアの東方約千六百キロの南太平洋にある国で、当時は英連邦の自治領であった。北半球とは逆で、十二月前後が夏で八月前後は冬である。いわゆる北風の吹く日は暖かく南風の吹く日は寒い。後日知ったことだがウエリントン地方の平均温度は、十二月最高二十九・一度、最低三・四度、八月最高十八・九度、最低マイナス一・六度である。一日の寒暖が激しく、この気温の変化に対応することはなかなか容易ではない。

港にあがると人員点検があり、船の米軍からニュージールランド軍へ引き渡された。

われわれ捕虜六十数人は二台の幌付きトラックに乗せられた。

トラックは全員を振り落とさんばかりに大揺れにゆれながら、山道をいく度となく登り下りして走った。

幌の隙間から垣間見る景色は、枯木が一面に倒れている不毛の地であった。われわれの行く末を象徴するかのような暗い風景に、不安は募るばかりであった。

山道をさらに下り平坦な道にかわると、人家がぼつんまたぼつんと見えてきた。

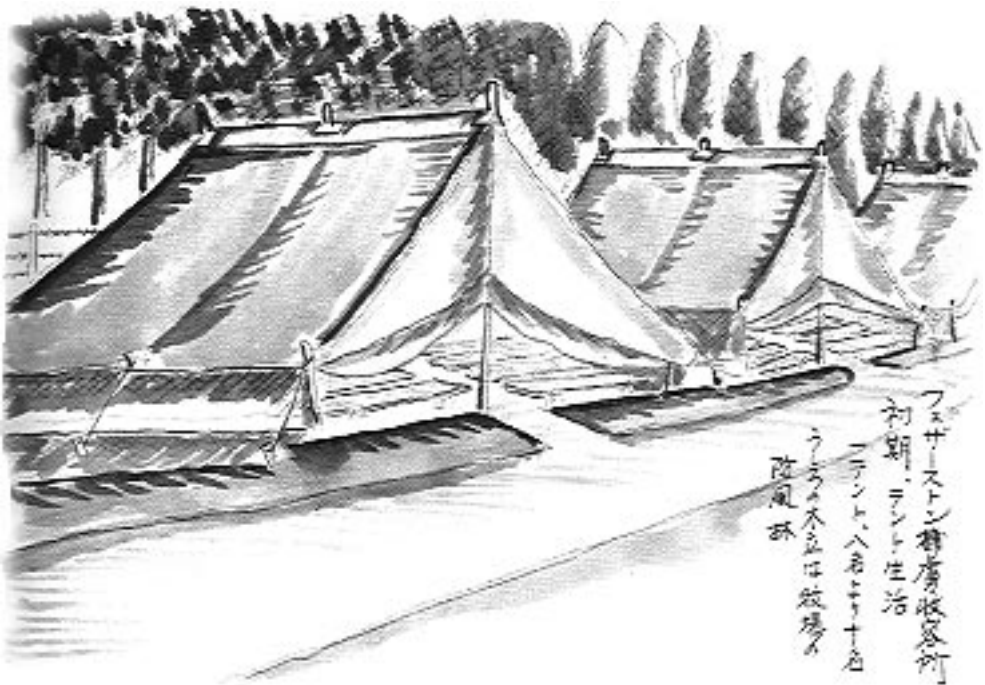


フェザーストン捕虜收容所

数時間かかってやっと車が止まり、降ろされたところは二重に張り巡らされた鉄条網の中だ。外側の鉄条網には電気が通じていた。

柵の中には黒服を着た異様な風体の人々があちこちにいた。朝鮮人や中国人らしかった。ニュージールランド人らしい通訳が、流暢な日本語でしゃべり始めたのには驚いた。

「みなさん長い道中、はるばると苦勞をまでしました。さあ、どうぞずっと中へ入ってください」



フェザーストン捕虜收容所
初期・テント生活

テント、八角より十名
うち、大釜は炊場、
陸風、

それについて、日本語での

「中にいる方々はみなさんのお仲間ですよ」

に二度びくりした。

捕虜はわれわれだけかと思っていたが、先に捕まっていた連中が、こんなに沢山いたのだ。ああ自分たちだけではなかったと、どこかほっとした気分になり心強くもあつた。

ところが、『フェザーストン捕虜収容所』だつた。

▲フェザーストン捕虜収容所 服装

ニュージラランド陸軍軍服を黒色に染変え支給。上衣背中
スポンの前は右膝上に、後は左にダイヤ型の色違いで、
かあ黄色のつぎ

はぎあり逃
亡した時

に民間
人でも

すぐに
わかる様に

胸には番号を
ポケットの上に。

▲左側の帽子、ニュージラランド陸軍の
かあ黄色を黒色に染変えたものを
変形させてかぶっていた。

▲靴は黒色

編上げの靴



たち三百十数人。No.2第二収
容所)はわれわれ主戦闘員の
軍関係者約三百人に分けられ
ていた。しかしNo.1の中にも
なぜか数人、兵隊と思われる
人々が混じっていた。

軍関係者の中には駆逐艦や巡
洋艦、飛行機乗りの生き残り
が多かつた。

みな丸坊主。服装はニュー
ジラランドの兵隊の茶色の服
を黒に染め変え、背中にダイ
ヤ形の切り抜き、スポンは左の
腿と右の後ろに、ダイヤ形のつ
ぎがあたり、胸と背中にナン
バーの入ったものを着せられて
いた。

つづく

次回第二十三回は

五月十一日(火)の予定